

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—

思・判・表：社会的な思考・判断・表現

技能：資料活用の技能

知・理：社会的事象についての知識・理解

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	A設定通過率(%)	B通過率(%)	AとBの比較
地理(1)ア	1	(1) 赤道を指摘することができる。		知・理	75	70	—
地理(1)ア		(2) アメリカ合衆国が太平洋と大西洋に接していることを指摘することができる。		知・理	65	91	↑
地理(1)ア		(3) 東京から見た距離と方位の正しい地図を適切に活用し、東京から真南に移動して地球を一周したときに、2番目と3番目に通過する大陸を指摘することができる。		技能	40	17	↓
地理(2)ア		(4) 日本とワシントンD.C.の時差を計算し、正しく表現することができる。	◇	思・判・表	40	29	↓
地理(1)ウ	2	(1) 資料を読み取り、アジア州をいくつかに分けたときの東アジアの特色を指摘することができる。	◇	思・判・表	55	44	↓
地理(1)ウ		(2) 世界で人口が多い第1位と第2位の国を指摘することができる。		知・理	65	64	—
地理(1)ウ		(3) 複数の資料から中国とインドの人口の推移の特徴を指摘することができる。	◇	思・判・表	45	76	↑
地理(1)イ		(4) 西アジアで主に信仰されている宗教を指摘することができる。	◇	思・判・表	65	64	—
地理(1)ウ	3	(1) 資料を読み取り、正しい雨温図を指摘することができる。	◇	思・判・表	65	41	↓
地理(1)ウ		(2) 資料を読み取り、アフリカ州とアジア州が、森林減少率が0.5%以上の地域を複数含んでいる州であることを指摘することができる。		思・判・表	65	68	—
地理(1)ウ		(3) 複数の資料を読み取り、ブラジルの経済発展と森林の減少について、誤っている内容を指摘することができる。	◇	思・判・表	40	33	↓
地理(2)ア	4	(1) 地図から北方領土の位置を指摘することができる。		知・理	60	48	↓
地理(2)ア		(2) 資料から日本の周辺に位置する国や地域を指摘することができる。	◇	思・判・表	60	74	↑
地理(2)ア		(3) 日本とカナダの領海・排他的経済水域と領土の面積を比較して分かることを表現することができる。	◇	思・判・表	50	54	—
歴史(1)ア	5	(1) 元寇が起こった頃の時代区分を指摘することができる。		思・判・表	60	78	↑
歴史(1)ア		(2) 古代、中世、近世を指摘することができる。		知・理	40	33	↓
歴史(1)ア		(3) 各時代区分の特徴的な建造物を指摘することができる。	◇	思・判・表	50	55	—
歴史(2)ア	6	(1) 邪馬台国が成立していた頃の日本の遺跡を指摘することができる。		知・理	40	30	↓
歴史(2)ア		(2) 邪馬台国が成立していた頃の東アジアの様子を指摘することができる。	◇	思・判・表	55	53	—
歴史(2)ア		(3) 遺物から、適切な時代を指摘することができる。	◇	思・判・表	65	69	—
歴史(2)ア		(4) 渡来人を指摘することができる。		知・理	70	79	↑
歴史(2)イ	7	(1) 聖武天皇が行った政治にあてはまらない内容を指摘できる。		知・理	55	28	↓
歴史(2)ウ		(2) 資料を読み取り、国風文化の特色について、あてはまる語句を指摘することができる。	◇	思・判・表	65	44	↓
歴史(2)イ		(3) 資料を読み取り、各時代を代表する文化財を古い順に並べ替えることができる。	◇	思・判・表	70	82	↑
歴史(3)ア	8	(1) 平清盛と足利義満が共通して行った政策を指摘することができる。		知・理	50	46	—
歴史(3)ア		(2) 資料から六波羅探題を指摘することができる。		知・理	40	47	↑
歴史(3)ア		(3) 資料を読み取り、後醍醐天皇の政治が年表中のどの時期に行われたのか指摘することができる。	◇	思・判・表	40	35	—
歴史(3)イ		(4) 南北朝動乱後の室町時代の社会の様子について、あてはまらない内容を指摘することができる。		知・理	65	24	↓

A設定通過率とB通過率を比較する際は、下記により判断する。

+5ポイントより上の場合：「↑」 ±5ポイントの範囲内：「—」 -5ポイントより下の場合：「↓」

評価の観点	思・判・表	技能	知・理
A設定通過率	56	40	57
B通過率	56	17	51

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東青管内		西北管内				
			青森市	東郡	五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	(1) 赤道の選択	75	68	68	74	71	70	71	73
	(2) 太平洋と大西洋の指摘	65	90	90	93	92	95	93	89
	(3) 地図上の南極大陸と南アメリカ大陸の指摘	40	20	20	30	15	19	16	12
	(4) 時差の計算と表現～日本とワシントン D.C.	40	33	33	46	31	31	38	28
2	(1) アジア州の特色の理解～東アジアの特色	55	50	50	51	44	47	44	40
	(2) 人口の多い中国とインドの指摘	65	67	67	67	66	67	62	67
	(3) グラフの読み取り～人口の移り変わり	45	76	76	82	77	75	79	78
	(4) イスラム教の特徴の指摘	65	66	66	61	61	59	61	64
3	(1) 主題図の読み取りによる雨温図の選択～南半球の温帯	65	41	42	33	43	46	37	44
	(2) 主題図の読み取り～森林の減少率	65	69	68	77	66	66	71	64
	(3) 主題図の比較と読み取り～アマゾンの変化	40	34	34	37	34	39	35	28
4	(1) 北方領土の位置の選択	60	46	46	54	47	48	45	48
	(2) 主題図の読み取り～日本周辺の国々	60	74	74	83	74	75	75	71
	(3) 資料の比較と表現～日本とカナダ	50	58	57	74	52	50	76	41
5	(1) 時代区分の指摘～元寇	60	80	79	89	77	76	81	76
	(2) 大きな時代区分の理解～古代、中世、近世	40	33	32	61	57	60	73	45
	(3) 大きな時代区分の特徴的な建造物の選択	50	58	58	63	57	55	66	53
6	(1) 弥生時代の遺跡の理解	40	30	30	25	30	37	25	25
	(2) 弥生時代における東アジアの様子	55	53	53	54	52	50	47	56
	(3) 古代の遺物の指摘	65	73	73	72	67	70	74	59
	(4) 渡来人の理解	70	83	83	84	70	68	79	66
7	(1) 聖武天皇の政治の理解	55	31	32	21	27	27	25	28
	(2) 国風文化の特色の表現	65	47	47	50	39	35	45	39
	(3) 各時代を代表する文化財の指摘～古代	70	84	83	89	80	79	84	79
8	(1) 共通する政策の理解～平清盛・足利義満	50	51	50	60	47	39	63	46
	(2) 六波羅探題の理解	40	53	52	59	43	42	49	41
	(3) 後醍醐天皇による政治の時期の指摘	40	35	35	37	35	38	33	33
	(4) 室町時代における社会の様子	65	24	24	23	25	26	20	26
教科全体		56	55	54	59	53	53	56	51

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
70	68	76	73	68	78	78	74	79	69	66	80	67	67	67	70
89	89	91	89	89	93	94	91	94	93	93	94	91	91	92	91
16	17	18	10	16	19	21	13	20	16	16	17	16	16	15	17
25	24	32	30	21	31	32	31	31	29	28	29	25	26	23	29
39	41	35	38	39	42	40	48	41	41	43	36	41	42	38	44
62	62	63	66	59	63	62	67	62	69	69	72	63	62	64	64
77	76	78	77	78	77	74	81	78	77	78	75	74	74	78	76
61	59	67	68	60	66	66	68	65	59	60	55	66	66	65	64
39	37	49	49	30	43	46	36	44	38	39	35	42	43	41	41
62	61	64	70	59	69	69	66	70	67	68	64	71	72	66	68
30	30	35	28	29	33	37	30	32	36	38	29	32	32	31	33
49	50	53	48	40	47	53	43	46	48	49	46	50	50	48	48
72	71	76	77	68	76	78	77	74	71	71	71	76	77	71	74
52	47	58	70	54	55	50	57	58	54	54	57	53	52	53	54
74	72	79	78	75	78	78	79	78	78	77	83	79	78	81	78
20	11	45	54	15	51	60	39	50	38	35	50	17	16	20	33
48	47	51	58	37	56	62	52	55	57	60	45	57	57	56	55
28	26	32	32	29	36	35	37	37	25	25	27	28	29	27	30
52	52	55	51	51	54	59	52	52	48	50	43	54	54	56	53
64	63	64	76	60	69	71	68	67	72	73	71	71	70	74	69
77	76	78	79	84	77	80	71	78	90	92	82	81	80	82	79
28	29	28	30	23	24	24	24	24	25	26	21	27	26	30	28
38	38	39	49	27	45	45	51	41	48	50	40	49	50	43	44
83	81	87	87	81	82	83	83	80	84	83	87	82	82	81	82
43	40	53	55	42	49	53	40	50	43	42	47	43	43	43	46
44	41	45	59	45	50	50	46	52	55	55	56	40	40	41	47
33	31	36	38	34	35	35	32	37	39	39	40	35	35	37	35
25	26	25	19	26	25	25	26	25	24	26	17	23	24	21	24
50	49	54	56	48	54	56	53	54	53	54	53	52	52	52	53

※通過率(%)は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の小数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	主な誤答例(無答を含む) (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
①(3)	17	2番目をオーストラリア大陸・3番目を南極大陸(34.5) 【2番目に通過する大陸をオーストラリア大陸(39.0)】 【2番目は正しいが、3番目を間違えた例：ユーラシア大陸(13.0)、北アメリカ大陸(7.0)】
②(1)	44	東南アジア(26.5)、南アジア(7.5)、西アジア(5.0)、中央アジア(5.0)
③(1)	41	北半球の温帯(23.0)、熱帯(15.5)、高山の気候(14.5)
④(1)	48	千島列島(36.5)、カムチャツカ半島(4.5)、樺太(4.0)
⑥(1)	30	岩宿遺跡と吉野ヶ里遺跡(25.0)、三内丸山遺跡と吉野ヶ里遺跡(22.0)【吉野ヶ里遺跡が正答だと分かっている(72.5)、登呂遺跡だと分かっている(43.0)、両方分からない(9.5)】
⑦(1)	28	墾田永年私財法(44.0)、遣唐使を中国へ(15.0)、国分寺を建てる(9.5)、無答(0.7)
⑧(4)	24	室町時代の文化の様子(37.0)、室町時代の農業の様子(23.5)、室町時代の社会の様子(18.0)

- ①(3)では、指示された大陸を選択し、それらを順番に並べ替える作業を伴うことから、誤答が多く、しかも多岐にわたっている。正距方位図法を多様な観点から操作し考察させる場面が少なかったのではないかと考えられる。
- ②(1)では、誤答の原因として、「ASEAN」に中国が含まれるとした解答が多いことから、中国やアジアNIESの急速な工業化と、ASEANの工業化を混同していると考えられる。
- ③(1)では、誤答の原因として、南半球ではなく北半球に位置する温帯の雨温図を選択した解答が多いことから、気候について学習する際に南半球の雨温図を取り上げるなど、多面的に考察させる場面が少なかったのではないかと考えられる。
- ④(1)では、誤答の原因として、地図中の千島列島を北方領土としている解答が多いことから、北方領土の地図上の位置を正しく理解していないことが考えられる。
- ⑥(1)では、誤答の原因として、各時代を代表する遺跡を指摘できない解答が多いことから、原始と古代の各時代の特徴を、遺跡をはじめとする様々な観点で区別する指導が不十分であると考えられる。
- ⑦(1)では、誤答の原因として、飛鳥・奈良・平安時代のそれぞれの特色があいまいになっている解答が多いことから、単元を振り返って各時代の相違点や類似点をまとめ、時代を大きく捉える指導が不十分であると考えられる。
- ⑧(4)では、誤答の原因として、鎌倉・室町時代のそれぞれの特色があいまいになっている解答が多いことから、⑦(1)と同様、単元を振り返って各時代の相違点や類似点をまとめ、時代を大きく捉える指導が不十分であると考えられる。

エ 今後の指導について

○課題の見られた問題 ②(1)

○出題のねらい

アジア州をいくつかに分けたときの東アジアの特色を判断する問題である。資料の読み取りから、アジア州の地域区分の位置と特色を関連付けて捉えているかを問う問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、東アジアの特色として、中国やアジアNIESの急速な工業化と、ASEANの工業化を混同し、東南アジアの特色のカードを解答する誤答が多くみられた。

課題として、アジアNIESやASEANの対象となる国や地域と、その特色の関連付けができていないことが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、単元を振り返る活動の中で、既習の社会的事象を関連付けながら、多面的・多角的に考察させ、対象となる国や地域の特色を文章で表現させることが大切である。

指導例

学習内容を関連付けて、単元の学習を振り返らせる指導 ～単元名「アジア州」～

【指導の流れ】

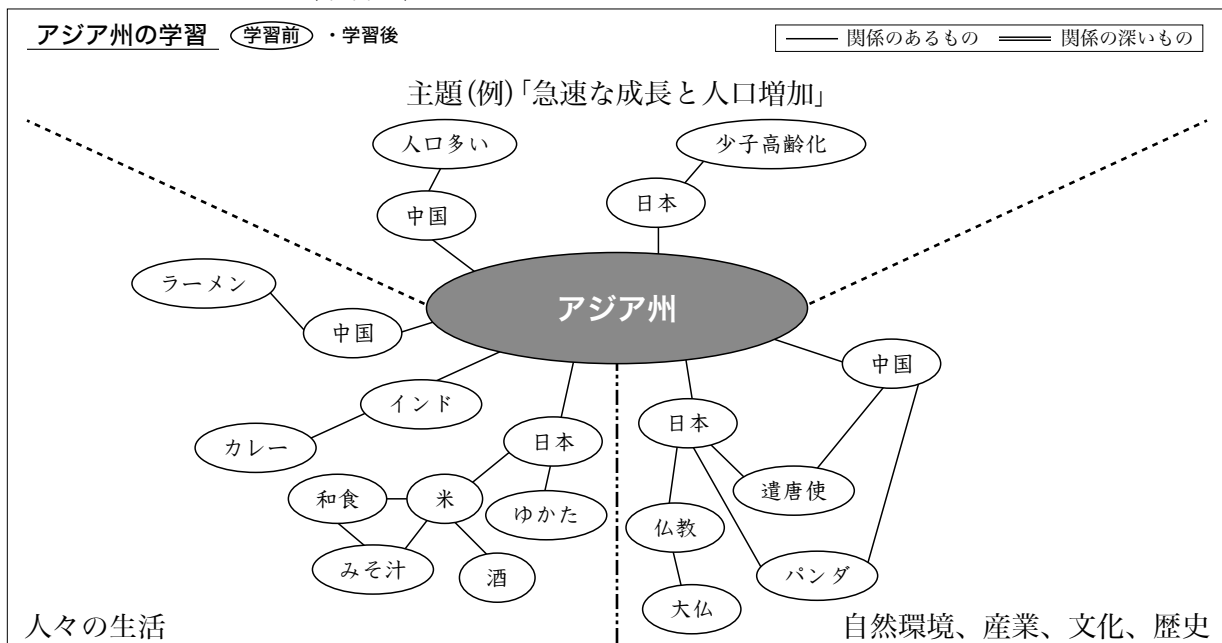
1 アジア州の学習の前に既習の知識を整理・確認させる。

学習活動 単元の学習前にアジア州について、知っていることを確認する。

今日からアジア州の学習をします。みなさんがアジア州についてどんなことを知っているかウェビングシートで確認してみましょう。



《ウェビングシート（学習前）》



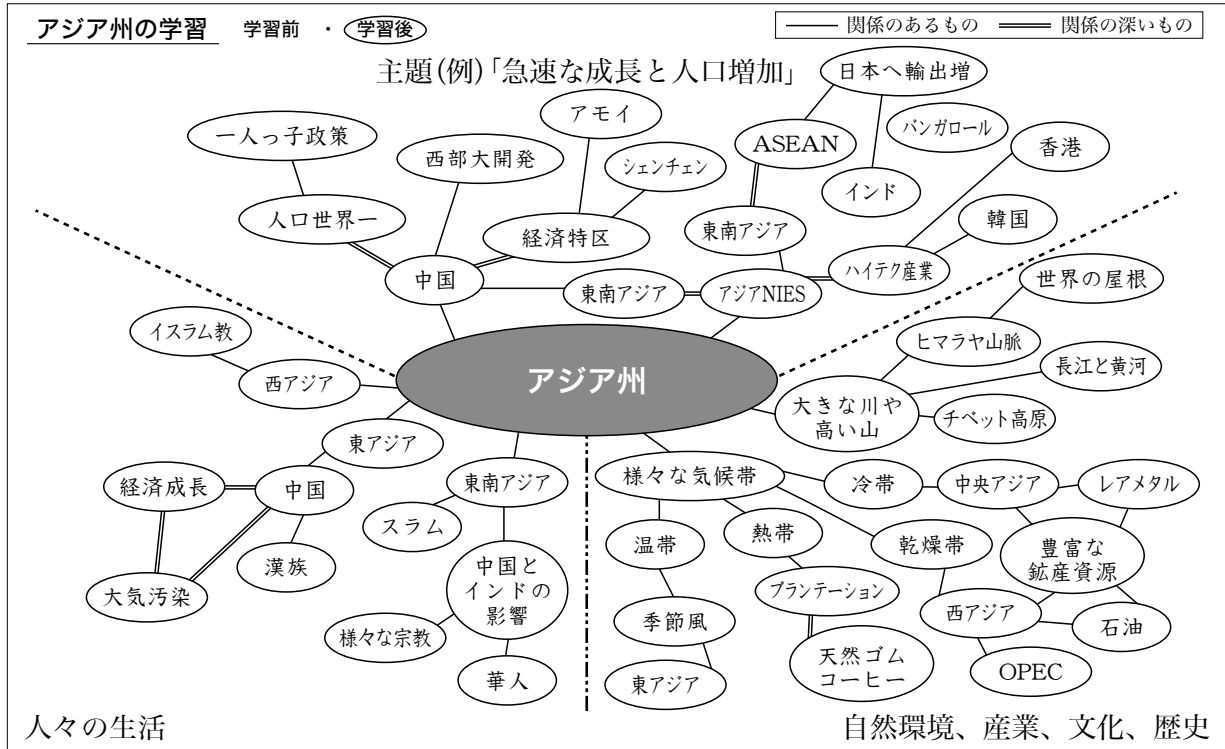
ポイント

- ・ウェビングシートの記入欄は、アジア州の学習の主題（例）「急速な成長と人口増加」と「人々の生活」、「自然環境、産業、文化、歴史」に分割し、視点を明確にしておく。
- ・既習の知識を確認させ、この後の学習の見通しをもたせたり、学習課題を発見させたりする。

2 アジア州の学習の後に分かったことを関連付けながら整理・確認させる。

学習活動① 単元の学習後にアジア州について、どのようなことを学んだかを確認する。

《ウェビングシート（学習後）》



学習活動② グループでシートを交換し合い、その後で気付いたことを自分のシートに書き加える。



〇〇さんのシートを見て、書き忘れていたことがたくさんありました。書き加えたら関連するものが出てきました。



グループの話し合いで、思い出したことや、自分のシートに書き加えたいことがたくさん出てきました。

ポイント

- ・既習の社会的事象をつなぎ合わせたり、単元を振り返らせたりしながら、アジア州の学習内容をメタ認知させることで、学習の成果を実感させる。
- ・グループ活動で書き加えられたことが、この後の「世界の諸地域」の学習において、新たな視点や課題となるため、多面的・多角的に考察させる。

3 ウェビングシートを比較し、気付いたことを自分の言葉でまとめさせる。

学習活動 学習前と学習後のウェビングシートを比較し、自分が獲得した知識や思考を確認した上で、アジア州の特色について主題に照らして文章で表現する。生徒の実態に合わせて、視点を与えて振り返らせてもよい。

《まとめの視点例》

- 1 自然環境（地形と気候）
- 2 アジア州の細かい区分（〇〇アジア）
- 3 産業（農業や鉱工業）
- 4 成長（工業化や経済）
- 5 文化（民族や宗教）



僕は、アジア州を主題の「急速な成長と人口増加」に照らして大まかな特色をまとめてみようと思います。

私は、主題について単元の特色を書けなかったので、先生が教えてくれた「東アジアの特色」をまとめてみようと思います。



エ 今後の指導について

○課題の見られた問題 8(3)

○出題のねらい

「二条河原落書」の資料の読み取りから、後醍醐天皇の政治が年表中のどの時期に行われたかを判断する問題である。武家政権である鎌倉幕府の滅亡により、天皇を中心とする建武の新政が行われたが、再び武家政権である室町幕府が全国を支配する唯一の政権となった過程を、我が国の歴史の大きな流れの中で捉えているかを問う問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、「二条河原落書」が後醍醐天皇の時代の様子を表していることについての理解不足や、後醍醐天皇による政治の時期の捉えがあいまいであることが挙げられた。

課題として、単元を振り返る場面を計画的に設定し、各時代の特色を、他の時代と比較したり、関連付けたりして捉える活動が不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色などについて、他の時代との共通点や相違点に着目し、学習内容を比較・関連付けて、その結果を言葉や図などで表したり、意見交換したりする活動を取り入れることが大切である。

指導例

単元の学習を振り返り、大きな時代区分を大観させる指導 ～単元名「中世の日本」のまとめ～

【指導の流れ】

1 前時までの各授業において、各生徒が重要であると考えた語句を付箋等にかかせておく。

《語句カード例》

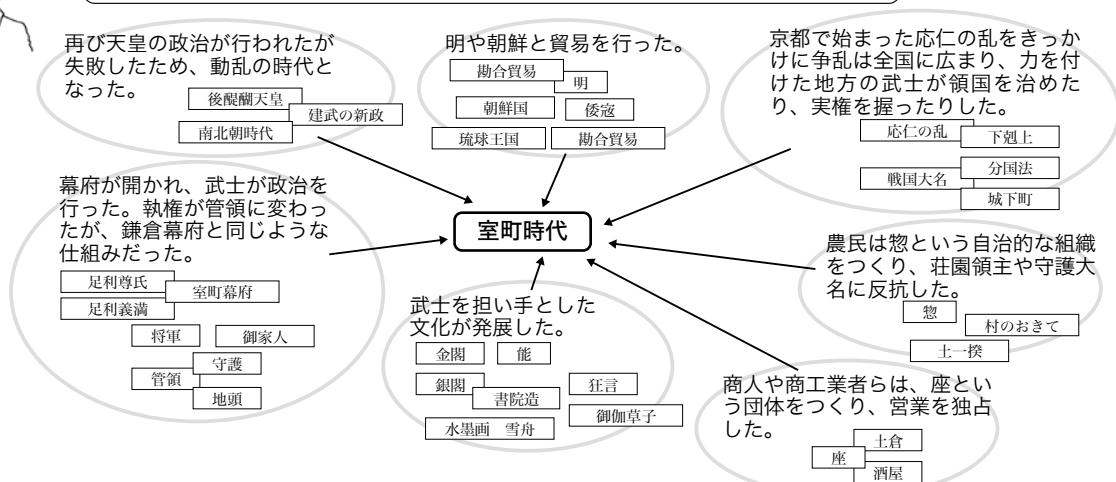
建武の新政	後醍醐天皇	足利尊氏	室町幕府	將軍	御家人
勘合貿易	応仁の乱	惣	金閣	銀閣	水墨画

2 室町時代の特色をまとめさせる。

学習活動① グループで、語句カードを分類し、カードのまとまりから特色を考察する。



室町時代で学習した語句カードを、関連するものでまとめ、語句のまとまりから分かることを書き表しましょう。



学習活動② グループで話し合ったことを発表し合い、全体で共有する。

天皇の政治が失敗し、その後、室町幕府による武士の政治が行われました。やがて、京都で始まった応仁の乱をきっかけに、争乱は全国に広まり、力を付けた地方の武士が領国を治めたり、実権を握ったりする戦国の世となりました。



明や朝鮮との貿易により、日本の経済や文化は大陸の影響を受け、武士を担い手とする文化が発展しました。また、地方では、農民や商工業者が自治的な組織をつくり、荘園領主や守護大名に抵抗するようになりました。



学習活動③ グループでの話し合いを基に、個人で室町時代の特色を文章でまとめる。

ポイント

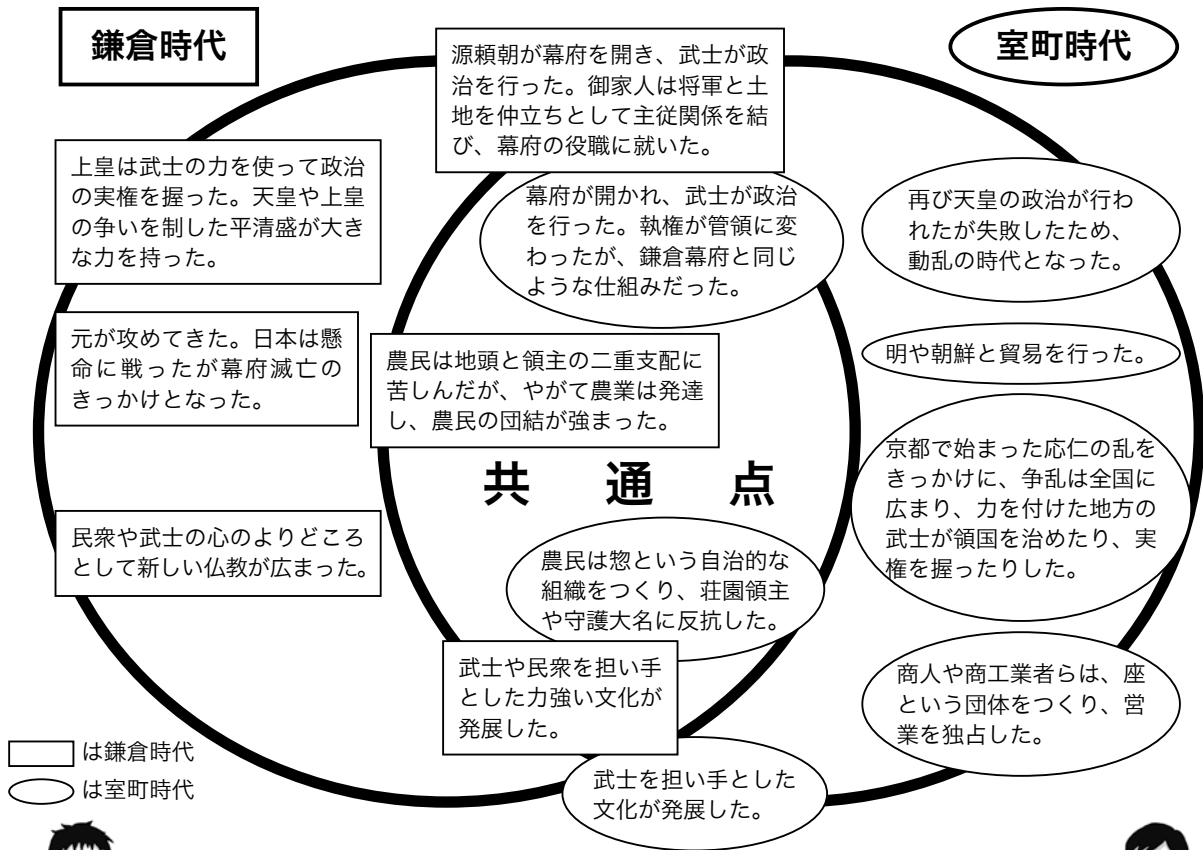
・ K J 法を用いて語句カードを分類させることにより、語句を関連付けてその特色をまとめ、整理させる。

3 鎌倉時代と室町時代の特色を比較し、共通点から中世の特色をまとめさせる。

学習活動 グループで、それぞれ時代の特色をまとめたシートを比較し、共通点をまとめる。



鎌倉時代から室町時代までを、「中世」という区分で時代をまとめることがあります。中世とはどのような特色をもつ時代でしょうか。2つの時代を比べて共通点をまとめてみましょう。



中世は、武士が政治を行った時代です。



中世には、農民や商工業者が力をつけ農民の団結が強まりました。



中世では、将軍と御家人が土地を仲立ちとして主従関係を結びました。



中世には、武士を担い手とした文化が発展しました。

ポイント

- ・ 鎌倉時代の学習の際、2と同様の学習方法で、鎌倉時代の特色をまとめさせておく。
- ・ ベン図を用いて室町時代と鎌倉時代の共通点や相違点に気付かせ、中世の特色を大きく捉えさせる。
- ・ ICTを活用して、効果的にまとめさせる方法もある。